

人生にとって「受験勉強」とは何か(1)

- 「受験勉強」で、一生使える基礎「学力」を身につけよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 本日の放送番組のねらい

(1) もちろん受験勉強は希望校合格のためにするものです。しかし、それだけではありません。

長い人生にとって「受験」とは何かを、年末ですので、皆様とともにゆっくりと考えたいと思います。

(2) ものごとをするのに、今やっていることの意味・意義をよく「うんなるほど」と「納得」し、つまり「理解」してやるのと、ただ何となく、何のために今このことをやっているのかよくわからず、余り納得せず、つまりよく「理解」せずにやるのでは、「よく生きる」という観点から見ると随分違いが生じるような気がします。

(3) 犯罪を犯した人に科する刑罰として、「空刑(くうけい)」というものがその昔あったそうです。石を何日かかけてAの場所からBの場所に運ぶ。運び終わったら、その次の日から何日もかけて、同じ石をBの場所からもとのAの場所に運ぶ。これほど意味のない刑罰はない、空しい刑罰はないという意味で、「空刑」とよばれていたそうです。

空しさが積み重なると、生きている意味がわからなくなり、生きているのが嫌になってしまうほどつらく厳しいのが、この「空刑」であるようです。

(4) 少し難しいとは思いますが、小学校の高学年になったら、今やっているものごとの意味を少しずつ考えることをお勧めします。

例えば、自分が今受験生であれば、何のために受験をするのか、その意味を時々考えてみるのが、「よく生きる」ために大切だと思います。

(5) 新しい年が3日後に迫りましたので、今日は、皆様の人生にとって「受験」の持つ意味とは何かを考えてみたいと思います。

2. 人生における「受験」の意味とは何か

(1) 現代は「知識を基盤とする社会」(「知識基盤社会」(英語で言うと Knowledge Based Society ナレッジ・ベースド・ソサイアティ)、短くして言うと「知識社会」(Knowledge Society ナレッジ・ソサイアティ))です。

小学校、中学校、高校、大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院など様々なレベルで勉強し、身につけた知識や情報、技術などを相互作用的に用いる能力が求められる時代であります。

日本語だけでなく、英語で書いてあることや話されたことを日本語と同じようによく理解できることが求められる時代でもあります。英語はとても大事です。また、コンピュータも欠くことができません。

(2)このような「知識社会」の時代ですから、今通っている学校で勉強している内容は、そこに在籍している間にすべて「理解」した上で正確に「身につけてしまう」ことが大切です。その意味で、上級学校に進学する際に、不確かであった知識を確実に定着させなければ合格することのできない「受験勉強」ほど役に立つものはありません。このように、「受験勉強」は基礎学力を身につけるのに大いに役に立ちます。

3. おわりに

(1)小学校、中学校、高校、大学、大学院、短期大学、専門学校、専修学校など、およそ「学校」と呼ばれる教育機関で勉強する内容で、世の中に出て役に立たないことは何一つありません。

(2)受験勉強は、その学校での最後のまとめの勉強。受験勉強をすることで、不確かであった勉強を確かなものとし、100%身につけた上で上の学校に進むという強い意志を持って受験勉強をしてみてください。

(3)自分の今やっていることの意味がよくわかると、「よく生きる」ことができます。

教育成果を上げるキーポイントは、「本人の自覚」です。何のために勉強するのか、本人が受験勉強の本当の意味をよくわかる、つまり「本人の自覚」が出れば、試験勉強にターボエンジンが付いたと同じ状況になります。

(4)年末・年始になると、皆様がお聴きになっているC R T栃木放送はじめ各ラジオ局、T V局、新聞社、雑誌社では、1年を締めくくり新しい年を展望する、内容のある番組や特集がどんどん組まれます。年末・年始こそ、じっくりラジオを聴き、T Vを見、新聞を読んで、深く深くものごとを考えてみると素晴らしいと考えます。

(5)今日の放送はこれで終わりますが、皆様よいお年をお迎え下さいね。

以上